

今回は、3 月 1 日の日経新聞の春秋を紹介します。

業務の効率を高めるには、まず余計な仕事をやめるのが早道だ。第 1 次南極越冬隊長を務めた西堀栄三郎さんは、能率とは「目的を果たしながら、もっとも要領よく手をぬくこと」だと自著の「石橋を叩けば渡れない」で名言している。

「手ぬき」など、とんでもないと思う人もいるだろう。最近、トヨタ自動車のリコール問題などで、企業の品質管理のあり方があらためて問われている。コンプライアンス（法令順守）の強化も重要な課題だ。二重三重のチェック体制が必要という意見もうなずける。しかし西堀さんは品質管理の専門家でもある。

単に人手をたくさんかけたり、頻繁に報告させたりしても、手間がかかるだけだ。ことに一から十までオレを通せという上司は要注意である。自分では判断せず、何でも上にお伺いをたて業務を遅らせることが多い。パナソニックの森下陽一相談役は社長になった時「オレは聞いていないと言うな」と社内を戒めた。

個々に権限と責任を決めて任せた方がよい。帝人に昔いた大社長の大屋晋三さんは「課長は部長に、部長は役員にそれぞれなったつもりで働け」と言ったとか。だが、得して課長以下の業務に首を突っ込む部長が少なくない。極端な話、社長が部課長の仕事までやりだしたら、会社は余計な仕事であふれかえる。

1) 業務の効率を高める早道は、何ですか？

()

2) 能率とは？

()

3) どのような上司は要注意ですか？

()

4) パナソニックの森下陽一相談役は社長になった時、何と言って社内を戒めましたか？

()

5) 帝人に昔いた大社長の大屋晋三さんはどのように働けと言いましたか？

()

)